

新任薬剤師研修会を終えて

東京病院 薬剤部 鈴木 恭彦

出身大学：明治薬科大学（平成29年）

興味のある分野：模索中

平成29年度4月1日付で東京病院に採用となりました、鈴木恭彦と申します。大学時代は水泳部に所属し、最近ではたまにランニングもしています。大学時代から夕飯や次の日の弁当を作っていて、料理が少し楽しくもあり、得意になりました。

入職してから早4ヶ月が経ちましたが、毎日充実した日々を送っています。入職当初は、調剤業務や注射業務の研修をさせていただき、業務を覚えることで必死でした。今では、病棟業務にも少しずつ加わっています。調剤・注射業務といったいわゆる中央業務でも、病棟業務でも日々知識不足を痛感しています。毎日薬剤師や医師の先生方から学び、患者さんからも学ぶこともあり、様々な事を吸収しています。私は、先輩薬剤師の先生から服薬指導時や普段からの人当たりの良さを評価されたので、これからも患者さんに寄り添い、話したときに気持ちの楽になれるような薬剤師を目指していきたいと考えています。

第21回新任薬剤師研修会が7月1日に行われ、研修会の前半に「医療安全とは」という講演が行われました。医療安全において、間違いは誰もが起こしうることでありますが、まず患者さんの安全を最優先に考え、完璧に近いものにしていこうという考えや態度で行っていく事が重要であり、エラーが起きやすい場面や自分の癖等を知ることでも未然に防ぐこともできることが分かりました。私は、入職当初より3、4ヶ月経った今の方が、ミスが目立つようになってきてしまいました。薬剤師免許も取得し、調剤印を押せる様になり、この講演を聴いたからこそ、緊張感や慎重さを忘れてはいけないと再認識しました。忙しい時やシングルチェックになってしまう時は特にエラーが多

くなってしまう、焦ってしまうので、そんな時だからこそ、忙しくなった時は一度呼吸を整えてから行うようにしています。

研修の後半では「チーム STEPPS」という講演とそれに基づいたグループワーク、実際の医療現場を模した疑義照会のロールプレイが行われました。「チーム STEPPS」の基本は、「リーダーシップ」「状況モニター」「相互支援」「コミュニケーション」の4つがあります。紙の鎖を繋げていく作業では、2回目、3回目は会話が禁止されたり、利き手が使えなかったりと、会話・ジェスチャー・アイコンタクト等のコミュニケーションの重要性、作業の分担におけるリーダーシップの必要性を理解し、鎖の出来ている数見てお互いに繋げ合い、作業を通してチーム STEPPSの基本を体感できました。医師と薬剤師役に分かれ疑義照会を模したロールプレイでは、2回チャレンジルールやCUS、SBAR等のスキルを用いながら疑義照会を行いました。今までも現場で疑義照会を行っていましたが、改めてこのようなスキルを学んだことで、伝え方一つで人の意識を変えることができるようになりました。

本研修を終えて現在、新任薬剤師として日々の自己研鑽に励むことがまず医療安全に繋がると感じました。よって、私は、責任感があり、信頼される薬剤師となれるように、日々自己研鑽に励んでいます。

最後になりましたが、本研修会の開催してくださった先生方、日々ご指導いただいています東京病院の先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後ともご鞭撻のほどよろしくお願い致します。